授業科目名	国際教育協力論
科目番号	CB11101
単位数	2.0 単位
標準履修年次	2・3 年次
時間割	春AB 水5,6
担当教員	井田 仁康, 佐藤 博志, 名畑目 真吾, 金 玹辰, 江藤 双恵
授業概要	1ヵ月ほどのタイへの派遣（日本語教員の補助）を目的として，そのための講義を行う。国際教育協力の知識と考え方を習得するとともに，タイでの日本語補助教員としてのボランティア活動ができる資質を養う。 国際教育協力のあり方を概観し，ボランティア活動をするためのタイの社会，文化，教育について学ぶ。タイ語とタイにおける日本語指導について学ぶ。過去にタイへ派遣された学生たちの体験談を聞き，モチベーションを高めるとともに引き継ぎをおこなう。国際協力実習でタイにおける実習を行うためには，この講義の履修が条件である。実習においては，基本的な社会ルールとマナーを守ること，および実習校で受けた助言をよく理解し，省察することが求められる。これらの点についても，この授業を受講する時点から意識すること。また，履修希望者は，水曜日第5時限の第1回の授業に必ず参加すること。その他，授業中の指示に従うこと。
備考	キーワード:タイ語,タイ文化,タイの社会と教育,日本語教育,教育実践,ボランティア,国際協力 G科目 対面 タイにおける実習を行うためには，この講義（春学期AB，水曜日5•6時限）の履修が条件である。4年生の履修は原則として認めない。なお，タイの情勢や感染症の拡大状況等によって，実習の中止や予定変更があり得ることを理解して受講すること。タイにおける実習は教育学類生•人間学群生が優先であり，教職課程の履修が条件となる。
授業方法	講義
学位プログラム・コンピテンスとの関係	汎用コンピテンス 4．広い視野と国際性 専門コンピテンス 1．人間科学の理解力
授業の到達目標（学修成果）	国際教育協力の知識と考え方を習得するとともに,タイでの日本語補助教員としての活動ができる資質を養う。
授業計画	国際教育協力のあり方を概観し,タイの言語,社会,文化,教育について学ぶ。国際教育協力実習としてタイにおける実習（タイの学校での日本語指導）を行うためには,この講義を履修し単位を修得することが条件である。受講希望者は,水曜日第5時限の第1回の授業に必ず参加すること。 第1回 国際教育協力論及び実習についての注意事項 第2回 国際教育協力の概要 第3回 タイの地理 第4回 タイの教育 第5回 タイの文化 第6回 タイの言語 第7回 会話１（挨拶，自己紹介） 第8回 文字１（タイ語の翻字のルール） 第9回 会話２（親族，職業，国名に関する表現） 第10回 文字２（中子音・高子音・低子音と母音の組み合わせ）

授業計画	第11回 会話３（年月，日付，時刻に関わる表現） 第12回　文字３（末子音のある音節） 第13回 会話４（可能表現） 第14回 文字４（短母音を含む音節） 第15回 会話５（レストランでの会話） 第16回 文字５（擬似二重子音） 第17回 タイ事情の理解1 （タイ人の価値観や生活スタイル，農村と都市の格差を理解するためのビジュアル教材の鑑賞など） 第18回 タイ事情の理解2（日本人のタイでの貢献を理解するためのビジュアル教材の鑑賞など） 第19回 前年度派遣生による体験談 第20回 国際教育協力実習に向けて 学習の単元は変更・調整する場合もある。
履修条件	
成績評価方法	授業中の課題を30%，期末テストを70%として評価する。課題及び試験等については，上記到達目標にある内容についての理解・習得度を問うものとする。
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	事前・事後学習については，授業中の指示に従って行うこと。復習には何としても力を入れてほしい。一週間で 60分から120分程度行うことが望ましい。授業で学んだところ，教師の指示があった箇所について，毎週最低3回は教科書付属のCDを聞いて復習すること。
教材・参考文献・配付資料等	『タイ語レッスン初級〈1〉（マルチリンガルライブラリー)』スリーエーネットワーク 『実用タイ語会話』佐藤正文著 泰日経済技術振興協会 その他プリントを配布する。
オフィスアワー等（連絡先含む）	相談事項がある学生は、4月1日以降であれば第1回授業の前であっても,メールで連絡してもかまいません。担当教員のメールアドレスは,人間系教育学域のホームページの教員紹介欄で見ることができます。
その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）	国際教育協力実習としてタイにおける実習を行うためには,この講義(春学期AB，水曜日5,6時限)の単位修得が必須である。実習参加を前提としているため，4年生の履修は原則として認めない。ただし，実習参加を希望しないで、タイ語タイ文化の学習のためにこの講義(国際教育協力論)のみを履修することも可能である。タイの情勢や感染症の拡大状況等によって，実習が中止となったり予定が変更になる場合もあるため，そのことを理解した上で必ず第1回の授業に参加すること。実習に参加するためには，教職課程を履修中(教員免許取得希望)であることが望ましく，かつ教育学類・人間学群の学生が優先される。
他の授業科目との関連	
ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）	
キーワード	タイ語，タイ文化，タイの社会と教育，日本語教育，教育実践，ボランティア，国際協力